

第 37 回生命科学セミナー

「私たちはなにもので、どこへ向かうのか」

徳山 奈帆子

Nahoko Tokuyama, Ph. D.

中央大学 理工学術院/基幹理工学部・准教授

日時：2026年4月6日(月) 17:00-18:00

場所：中央大学後楽園キャンパス 6号館 2階 6209教室
(東京都文京区春日 1-13-27)

霊長類学は、進化の隣人であるヒト以外の霊長類との共通性や相違を検討し、ヒトの特性や進化の道筋を解明しようとする学際的な学問分野である。私は、現生動物の中でヒトに最も進化的に近い大型類人猿であるボノボとチンパンジーの行動生態学的研究に従事してきた。わずか 120 万年前に分岐した両種は、外見や基本的な生態、集団構造こそ類似しているが、社会関係には顕著な差異が認められる。本講演の前半では、メスの社会的地位や集団間関係に焦点を当て、2 種の違いがどのように生じ、それがヒト進化モデルの構築にどのような示唆を与えてきたかを解説する。

本講演の後半では、視座を現代へと移す。生態系の一部として進化したヒトが、地球環境を大きく変容させる存在となった現状において、持続可能な社会をいかに実現することができるか。野生動物の保全には、自然科学と人文社会科学を融合させた多角的なアプローチが不可欠である。コンゴ民主共和国やウガンダ共和国でのアンケート調査、自動撮影カメラを用いた哺乳類相の解明、そして世界 3 大熱帯雨林の 5 拠点で展開する、狩猟と保全の両立を目指す「Fashlocks プロジェクト」の取り組みを紹介し、ヒトと野生動物の新たな共生のあり方を展望したい。

学生、大学院生、教員ほか、ご興味のある方はどなたでも聴講できます。

問い合わせ先：浅井 智広 (Tel: 03-3817-7126, E-mail: cazai509@g.chuo-u.ac.jp)